

## 平成 30 年度 第 2 回 岡山市環境政策審議会概要

1 日 時 平成 30 年 5 月 29 日（火曜日）午前 10 時 00 分から午前 11 時 20 分まで

2 場 所 岡山市役所 議会棟 3 階第 1 会議室

3 出席者

委 員：別掲委員名簿参照（4 名欠席）

岡山市：環境局長、環境局次長ほか関係職員

事務局：環境企画総務課

4 傍聴者数 2 名

5 主な意見

可燃ごみの広域処理施設建設候補地選定における三次選定の項目について説明を行い、質疑応答が行われた。主な内容は以下のとおり。（●は委員、○は当局を示す。）

●収集運搬費が大きな判断材料になっているが、収集運搬にかかる経費は、運転の自動化等この 20 年で画期的に変わる可能性がある。経費はもっと低くなるのではないか。

●難しい話題で、将来のこととなるとどれくらいの技術進歩があるかわからない。ごみ収集車が自動化されると安全性が担保されるか極めて難しい。可能性はゼロではない。

●維持管理費及び収集運搬費について 20 年で考えているが、場所や設備が 20 年は変わらないのか。

●もっと変わらないと思われる。

○現在の岡山市の焼却場は 20 年以上運転しているところもあるので一応の区切りとして 20 年間としている。

●経済性の 20、20、10、30 という配点だが、費用に関するウェイトを付けることに違和感があるので、金額は項目ごとに評価せず、合計金額で評価する方がいいと思う。ただ収集運搬費は 1 年だけではないので、ある程度長期的にかかる。

●収集運搬費がどれくらい将来的に減っていくか、20 年ひよっとしたら 40 年使うかもしれないので。その辺の算定をどう判断するか。

●経費がセーブされるのは見通しも立つが、逆に 40 年あったら地震、津波等の災害が起こることもあるかと。そうなったときに、あまり仮定の話をしているとややこしくなるのではないか。

●20 年前からどれくらい効率のいい運搬費になっているのか。

●20 年前より人口は増えているから、ごみの量も増えているのではないか。あと燃料費が変わっている。

●ごみは減ると思う、多少は。運搬費も下がる。

●運搬費というのは、ごみの量が 1 割減ったからといって、結局は回数に因るところが大きい。

- 基本的には車の台数ということになるかと。もちろん距離、燃料費もある。ごみ量は減っていきだろうという見込みももちろん持っている。ごみ処理基本計画というのを立てており、その中でごみの量というのは将来的には減ってくると見ている。20年間の経費を1年間の経費の20倍とするのが良いのかということは確かにあると思うが、ここはあくまで試算のための数値ということで出しており、重み付けがどうなのかというところを見ていただきたい。
- 経済性の評価における各項目のウェイトはフラットにし、合計金額により評価すること。
- 二次選定項目の再評価における候補地 A、B、C は経済性の評価における X、Y、Z と順序がシャッフルされているという事で良いか。
- 良い。二次選定項目の再評価は A、B、C でそれほど大きな差は無いと思われる。ある意味において防災や環境は維持対策ができるのでコストが上がることと引き換えに得点上がる。ただ周辺環境や土地条件は変えられない。
- 二次選定項目の再評価の点数化のところ、得点の区分がなぜ 5 点、3 点、1 点なのか。
- 5 段階評価と思われる。
- 3 点、2 点、1 点でも良いのではないか。二次選定におけるマイナス点を無くすのであれば。
- 得点への影響を考えると周辺条件はあまり変わらない。土地条件は少し変わる。
- 各項目の重みが決まっているから配分だけの話である。
- 上限の点数が決まっているから、結局配分の問題。
- 二次選定項目の再評価という形で示しているが、最終的に 3 か所になった時点で改めて評価をし直す、再評価するといったときに、今までのネガティブ項目としてのマイナスという表示と違って、三次選定においては建設は不可能ではないという考え方で、最低点として 1 点を与えるということで点数化をした。
- 二次選定項目の再評価の点数が高いが、ざっくりやっているように見える。経済性の評価は客観的にデータで割り出しているように見えるが、割合は低めになっていて、この 2 つをトータルで評価するとなると、これでいいのかというのが気になる。
- 元々二次選定の中で、建設できないと判断される場所に対しては NG と判断してきた経緯がある。防災面等では、回避・低減できる項目としてマイナス面は回復できると考えている。また、関連施設の関係では、今後運営等をしていく中での工夫で回復していかなければならないと考えており、今回費用をかけて回復を見込まなければならないというものではないと考えている。5、3、1 を 3、2、1 にしてはどうかというような、二次選定項目の再評価の 120 点と経済性の評価の 80 点の重み付けのバランスを変えることであれば、そういったことも可能だと考えている。
- 環境が良いということと、収集運搬費用は関連する。その辺の相対的なバランスをどう考えるか。

- 経済性の評価の方では、候補地の得点が二桁の有効数字でまとめてあるが、それに比べると二次選定項目の再評価は内容が荒く見える。
- 荒く、ウェイトが高い。項目は多いがどちらかというと定性的な判断になっている。
- 二次選定項目の再評価については、三桁で積み上げたら見やすくなるが。
- 二次選定項目の再評価における対策等の経費が経済性に反映されているなら、120 対 80 を逆転させた方がより現実的な評価に近くなるのではないか。
- 120 対 80 という重み付けがいいのか、もう少し経済性が上がった方がいいのかというところはある。二次選定項目の再評価の部分と経済性の評価、その相対的なウェイトはどれくらいが適当なのかということはまさに今回ご議論頂きたいと思っている。当局としては項目数からして 120 ということをベースに、経済性に関しては 80 というウェイトでお示しをさせて頂いている。これが妥当かということでご意見頂戴できればと思う。ただ先ほどの二次評価の再評価、こういった部分に関しては今まで二次選定で行ってきたプラスマイナス、これはネガティブ要素ということで少し優位性に欠けるという意味でマイナス評価をしていた。今回は全体の評価をするために点数化をする中で各項目を 5 点満点にした上で、その中でどれくらいになるかというところで 5、3、1 という段階をつけた。それを踏まえて 120 対 80、あるいは 80 の内訳の配分、収集運搬のウェイト、そういったことを踏まえてまさにご議論頂きたい。
- 5 点満点を 3 点満点に変えると 120 が 72 になると思うが、そうすると、ウェイトとしては経済性の評価の方が 8 ポイント高くなる。そういう変え方もできる。
- 経済性の方が、対策費の経費等が入ってくるからウェイトとしては高いんじゃないかと思う。経済性の方で 3 つから 2 候補出し、それを二次選定項目の再評価の結果と比較して決めていく、それぞれ分けて、それぞれの評価を評価として使って、トータルを決めていくような。
- 二次選定項目の再評価の配点が 120 点に対し、経済性の評価の配点は 80 点であるが、項目ごとの得点を全部 30 点と考えれば経済性の評価の配点は 120 点となる。二次選定項目の再評価の項目が 5 項目に対して、経済性の評価の項目が 4 項目だが、考え方としては、二次選定の再評価 120 点に対して経済性の評価も 120 点とする方が、バランスがとれて良いと考える。  
よって、二次選定項目の再評価と経済性の評価の配点はイーブンにしておき、それぞれ 120 点とする。
- 3 候補地の面積や処理量は違うのか。
- 広域処理施設を作る上で候補地によって処理能力を変えることはない。
- 工事の費用は違うのか。
- 建設費は同じ。それまでにかかる造成費とかそういったところが違ってくる。
- 運搬費が多いということは、逆にいうと迷惑施設については迷惑に思う人が少ない。
- 収集運搬経費を 1 年とするか 20 年とするかということがあがるが、例えば 7、8 年で逆

転するのであれば20年で評価するという判断で良いと考える。

- 収集運搬費を何年間考慮したら経費の合計が逆転するか確認すると、2年か3年くらいで逆転しそうである。
- それなら3年5年10年と試算して、何年くらいで逆転するかを示せば、それを十分参考資料として判断して良いということになると思う。
- 配点を変えても序列は変わらないか。
- 序列は変わらない。
- 二次案、三次案と決めておいても良いと思う。
- この先は当局で決めて良いかと考える。審議会としてはもうこれ以上言うことは無い。
- 最終的には今のご意見を基に検討し、当局の方で選定を進めさせていただくという形にさせていただければと思う。

審議は以上。